

2018年6月14日

会長 広瀬道明 就任挨拶

一般社団法人 日本ガス協会

この度、会長に就任いたしました広瀬でございます。微力ではありますが、皆様のご指導、ご協力をいただきながら精一杯努めさせていただきますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

<第5次エネルギー基本計画について>

さて、先般、新しいエネルギー基本計画の素案がまとまり、近く閣議決定がなされる予定です。これは今後のエネルギー政策の指針と成るもので、社会からも大きな関心が寄せられています。

言うまでもなく、エネルギーは国民生活や産業活動になくてはならないものですが、残念ながら日本は資源の乏しい国です。したがって、エネルギー戦略を検討するに当たっては、将来に対する確たる展望を持ちながらも、あらゆる可能性にも目配りするという「したたかさ」と「しなやかさ」が必要です。

現下のエネルギー情勢を見ても、日本はまだ東日本大震災による影響から十分脱し切れておらず、エネルギーの安定供給、エネルギー価格の抑制に向け、懸命な努力が行われているところです。また、世界的に見ても、アメリカ、ヨーロッパ、中国など各国が抱えるエネルギー事情は様々であり、国益をかけた激しいつばぜり合いが展開されています。さらに、中東などの政治的・地政学的リスクは依然として大きく、先の見通しが立てにくい状況が続いています。

そうした内外の流動的かつ不透明な情勢の中、昨年から精力的にそして幅広い観点から検討を積み重ね、今回まとめられた基本計画はまさに「戦略性」と「柔軟性」を併せ持つものとして、高く評価するものであります。私たちガス事業者にとっては、高いハードル、厳しい道のりではありますが、この指針を踏まえ着実に前進していきたいと思えます。

<地球規模の大潮流とのコラボによる天然ガスの普及・拡大>

今回の基本計画の中で、天然ガスは「今後とも重要なエネルギーとしてその役割は増大していく」とされています。私たちガス事業者は、これまでもコージェネレーションやエネファームの開発など天然ガスの普及・拡大の先頭に立ってきましたが、これからはさらに大きな役割と責任を担うこととなります。

時あたかも、来年は日本で初めてLNGが導入されて50年を迎えます。この半世紀で日本は世界最大のLNG大国となりましたが、これから私たちは「LNGの次なる半世紀」に向け、新たな挑戦を始めることとなります。

私は、その大きな柱となるのが再生可能エネルギーとのコラボレーションだと思います。今回のエネルギー基本計画で、再生可能エネルギーは主力電源と位置づけられましたが、その普及・拡大には供給の不安定性など大きな課題があることも事実です。天然ガスにはその再生可能エネルギーの弱点をカバーし、それを補完するという新たな役割が課せられました。この再生可能エネルギーとのコラボレーションこそ、次なる半世紀に向けての「最大の使命」になるものと考えます。

一方、最近、めざましい勢いで進化を続けているのがデジタル化です。このデジタル化の流れは多くの産業に、あるいは産業の枠を超えて大きなインパクトを与えています。天然ガスの普及・拡大にとっても、このデジタル化が重要なカギを握っているものと考えます。今後、デジタル化とのコラボレーションをいかに図っていくのか、この難しい課題ではありますが新たな可能性をめざし積極的に取り組んでいきたいと思えます。

また、現在進行中の自由化とのコラボレーション、これにも大きな期待がかかっています。自由化によって既存事業者と新規事業者が切磋琢磨し、お客さまの厳しい評価・選択により新たなニーズ、サービスが生まれ、天然ガスの普及・拡大も一層加速していくものと思われます。自由化が規制改革という枠組から一歩踏み出し、技術の革新やビジネスモデルの変革につながるものとして、私たちはこれからも自由化に真摯に向き合っていきたいと思えます。

このように、現在、地球規模で進む「再エネ化」「デジタル化」「自由化」という大きな潮流を正面から受け止め、これを天然ガスの一層の普及・拡大に結び付けていかなければなりません。

<安全と防災について>

一方で、どのような時代になっても変わらぬものがあります。それが、安全と防災です。エネルギーはその名の通り大きな力を持つ反面、大変危険なものでもあります。この危険ではありますが、国民生活を豊かにし産業活動を支えるエネルギーである都市ガスを、365日、24時間安全にそして安心してお使いいただけるようにするのが、我々ガス屋の使命です。また、最近、日本各地で頻発する地震や集中豪雨などあらゆる自然災害に対し備えを万全にし、供給の安定性を高めていくことも我々ガス屋の責任です。改めてこのことを確認しておきたいと思えます。

<地域との共生について>

そしてもう一つ、大事なことがあります。それは地域との共生です。そもそもガス事業の歴史は地域とともに歩んできた歴史でもあります。今、地方創生が叫ばれ官民一体で推進されていますが、ガス事業者は間違いなくその担い手です。というよりもその中心にならなければなりません。ガス事業の発展は地域の発展なくしてはありませぬ。これも肝に銘じておきたいと思えます。

<終わりに>

以上、天然ガスの普及・拡大、安全と防災、地域との共生などガス事業者の果たすべき役割、責任についてお話してきました。日本ガス協会は、準会員、賛助会員を含め会員各社様と一緒にこうした課題に取り組んでいきたいと思えます。

また、ガス協会はここ数年、時代の変化に合わせスリムでパワフル、そしてスピーディーな組織運営をめざし、その充実化と効率化に努めてきました。いわゆる、これまでの延長ではない「非連続の改革」です。特に、この2年間で新しい組織像が明確になりました。これからはそこに魂を入れることとなります。ぜひ、会員各社のご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

最後になりますが、関係者の皆様方の引き続きのご指導、ご支援をお願い申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。

以上